

## 2023年度 京都大学医学部皮膚科研修プログラム（第 2023-1 版）

### A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され、安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

### B. プログラムの概要：

本プログラムは京都大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、また以下の表記載の施設を研修連携施設、研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している（項目 J を参照のこと）。

#### 研修連携施設

1.洛和会音羽病院	2.大阪府済生会野江病院
3.京都社会事業財団京都桂病院	4.国家公務員共済組合連合会枚方公済病院
5.京都医療センター	6.田附興風会医学研究所北野病院
7.医療法人医仁会武田総合病院	8.大阪府済生会中津病院
9.十条武田リハビリテーション病院	10.高槻赤十字病院
11.大津赤十字病院	12.天理よろづ相談所病院
13.長浜赤十字病院	14.兵庫県立尼崎総合医療センター
15.大阪赤十字病院	16.宇治武田病院
17.日本赤十字社和歌山医療センター	18.倉敷中央病院
19.鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科	20.香川大学
21.滋賀県立総合病院	22.JCHO 星ヶ丘医療センター
23.神戸市立医療センター中央市民病院	

#### 研修準連携施設

1.北山武田病院	2.公立豊岡病院
----------	----------

3.京都きづ川病院	4.赤穂市民病院
5.康生会武田病院	6.宇治徳洲会病院
7.関西電力病院	8.福井赤十字病院
9.洛西ニュータウン病院	10.三菱京都病院

### C. 研修体制：

研修基幹施設：京都大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：椛島健治（診療科長）

専門領域：アレルギー・免疫学、薬疹、角化症、  
膠原病、薬理学、トランスレーショナル  
リサーチ

指導医：小亀敏明	専門領域：水疱症、脱毛症
指導医：鬼頭昭彦	専門領域：皮膚免疫
指導医：神戸直智	専門領域：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、皮膚免疫
指導医：中溝 聡	専門領域：自己免疫性疾患(膠原病)、アレルギー
指導医：江川形平	専門領域：皮膚免疫、生体イメージング
指導医：遠藤雄一郎	専門領域：皮膚外科、化学療法、円形脱毛症
指導医：野村尚史	専門領域：皮膚免疫、薬疹
指導医：中島沙恵子	専門領域：アトピー性皮膚炎、薬疹、アレルギー
指導医：渋谷真美	専門領域：皮膚外科、皮膚科一般
指導医：藤井弘子	専門領域：皮膚免疫
指導医：渋谷倫太郎	専門領域：血管炎、皮膚免疫、皮膚科一般
指導医：入江浩之	専門領域：痒痒
指導医：要石就斗	専門領域：皮膚免疫
指導医：山村健太郎	専門領域：皮膚外科

施設特徴：専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、腫瘍外来、脱毛症外来、水疱症外来、白斑外来、真菌症外来、膠原病外来、蕁麻疹外来、薬疹外来、角化症外来を設ける。外来患者数は1日平均120名にのぼり豊富な経験を積める。年間手術件数は50名を超える（全身麻酔）。研究面では、表皮生物学、皮膚免疫、皮膚悪性腫瘍などのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

#### 研修連携施設1：洛和会音羽病院皮膚科

所在地：京都府京都市山科区音羽珍事町2

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水ちひろ（診療部長）

施設特徴：音羽病院は急性期医療を中心に早期回復をめざす地域の中核病院として機能しており、皮膚科においても他科との密接な連携のもと多彩な疾患経験をつむことが可能である。また、創傷ケアセンターを介して多診療科と連携して慢性創傷の治療にも取り組んでいる。

#### 研修連携施設2：社会福祉法人恩師財団大阪府済生会野江病院

所在地：大阪市城東区今福1丁目3番25号

プログラム連携施設担当者（指導医）：櫻井弓子（医長）

施設特徴：当院は大阪市東部地域（鶴見区、城東区、旭区）の基幹病院であり、地域医療支援病院、大阪府がん診療拠点病院、厚労省臨床研修病院(管理型)で400病床数30診療科の一般急性期病院である。

多様な皮膚臨床であるが、当院では分野に特定せず幅広く皮膚科の common disease をきちんと診て治療することで地域医療に貢献している。尋常性乾癬では生物学的製剤の使用認可施設であり、皮膚腫瘍については当科で対応可能なものについては、手術療法や外用療法など行い、当方で対応できない場合は、当院形成外科や大規模基幹病院に紹介している。なお、当科は、皮膚疾患治療用レーザーや紫外線照射装置、美容皮膚科用機材は所持していない。

#### 研修連携施設3：社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院皮膚科

所在地：京都府京都市西京区山田平尾町17

プログラム連携施設担当者（指導医）：石川牧子（診療部長）

施設特徴：当院は京都市西部、乙訓地区、亀岡市などの広域を対象とする。日常皮膚疾患を主に診療するが、周囲に皮膚科入院できる施設が少ないことより、地域連携病院として積極的に入院を受け入れている。外来患者数は1日平

均 60 名、入院患者数平均 3 名である。生検や切除など積極的に行っており、年間局所麻酔手術（生検を含む）件数は約 300 件である。

#### 研修連携施設4：国家公務員共済組合連合会枚方公済病院皮膚科

所在地：大阪府枚方市藤阪東町 1-2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：矢嶋萌(医長)

施設特徴：尋常性乾癬などに対する光線療法（NBUVB）を積極的に行っており、重症の尋常性乾癬に対し生物学的製剤を使用する。薬疹、接触皮膚炎などの原因検索目的にパッチテストを積極的に行っている。陥入爪、巻き爪に対するガター法、超弾性ワイヤー法、クリップ法などを組み合わせた治療も行なう。円形脱毛症に対する局所免疫療法（SADBE 外用）、ステロイドパルス療法も実施している。

良性皮膚腫瘍のデイスージャリー、炭酸ガスレーザーや高周波メスによる良性皮膚腫瘍の焼灼術も行なう。入院症例は帯状疱疹、蜂窩織炎、皮膚潰瘍、水疱症、薬疹、紅皮症などである。PAD に伴う皮膚潰瘍については、血管内科、心臓血管外科との連携で血流再建術を実施する。

壊死性筋膜炎など重症軟部組織感染症、皮膚悪性腫瘍、全身麻酔を必要とする手術症例は、適宜近隣の大学病院等に紹介している。

#### 研修連携施設5：京都医療センター

所在地：京都市伏見区深草向畑町 1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：十一英子（診療部長）

施設特徴：伏見区を中心とする京都南部の中核病院であり、ベッド数は 600 床である。緩和病棟・PET も導入しており、総合病院の機能を拡大している。乾癬の生物製剤使用承認施設であり、糖尿病足病変に対してはチーム医療を行っており、他院からの紹介患者が多い。院内でも腫瘍内科をはじめ各科から薬疹などの診療依頼が多く、当該科と連携して診療している。褥瘡委員会の中心となり、WOC（wound, ostomy, and continence）看護師と共に病院全体の褥瘡対策を行っている。

#### 研修連携施設6：公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院皮膚科

所在地：大阪市北区扇町2丁目4番20号

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉川義顯（皮膚科主任部長）

施設特徴：大阪市内の主要病院として、皮膚科においても多くの外来患者の診察にあたっている。一日平均120名にのぼり、局所麻酔による生検を含む年間外来手術は600件を超える。また、乾癬患者に対する生物学的製剤を用いた治療症例は100名を超えている。研究面で皮膚科スタッフのみならず他科あるいは他病院との連携のもと、多様な臨床研究創出している。

#### 研修連携施設7：医療法人 医仁会 武田総合病院皮膚科

所在地：京都市伏見区石田森南町28番地1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松井美萌（診療部長）

施設特徴：京都市南部の地域密着型の急性期病院であり、他科との連携、チーム医療を中心とした診療を特徴としている。当科の専門外来として、アトピー・スキンケア外来を行っている。褥瘡の治療及び予防に関しては、チーム医療を牽引する役割を果たしている。皮膚外科（手術、処置等）紫外線治療（30名程度/月）皮膚貼付試験なども随時行っている。

#### 研修連携施設8：大阪府済生会中津病院

所在地：大阪市北区芝田2-10-39

プログラム連携施設担当者（指導医）：荒井利恵（診療部長）

施設特徴：外来患者数は1日平均80名で、豊富な経験を積むことが可能である。年間皮膚生検・手術件数は300例を超える。

#### 研修連携施設9：十条武田リハビリテーション病院

所在地：京都市南区吉祥院八反田町32

プログラム連携施設担当者（指導医）：今村貞夫

施設特徴：京都市南区では常勤皮膚科専門医のいる唯一の病院であり、南区一円の診療所から多数の紹介患者を受ける。

#### 研修連携施設10：高槻赤十字病院

所在地：大阪府高槻市阿武野 1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：古川福実

##### 施設特徴

- ① 尋常性乾癬に対する生物学的製剤治療の日本皮膚科学会認証施設である。難治症例に対して、適応を見極めた上で、慎重かつ積極的に導入している。
- ② 皮膚腫瘍に関しては、ダーモスコピーおよび組織検査を併用して、確実な診断が可能である。良性・悪性にかかわらず、診断を積極的に行い、治療に関しては、形成外科とも連携して行っている。
- ③ 褥瘡、糖尿病性足潰瘍などの皮膚潰瘍の治療も積極的に行っている。陰圧閉鎖療法 (NPWT) も適応を見極め積極的に行っている。
- ④ 他科の化学療法（特に分子標的薬）による皮膚障害に対しては、細やかな対応を心がけ、極力本来の治療が滞ることのないようサポートしている。

#### 研修連携施設 11：大津赤十字病院皮膚科

所在地：滋賀県大津市長等 1 丁目 1-35

プログラム連携施設担当者（指導医）：笹橋真紀子（医長）

施設特徴：当院は滋賀県の基幹病院であり、ありふれた皮膚疾患から稀少な皮膚疾患まで多様な症例を経験することができる。重症薬疹や重症皮膚感染症をはじめとする救急疾患も数多い。豊富で多様な症例を通して、プライマリケアから専門的な知識・手技に至るまで皮膚科専門医に必要な臨床経験を十分に積むことができる。

#### 研修連携施設12：天理よろづ相談所病院皮膚科

所在地：奈良県天理市三島町 200 番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：田邊 洋（診療部長）

施設特徴：一般皮膚科特に他科関連の皮膚疾患の紹介が多い。皮膚腫瘍の手術は、形成外科と連携して対応している。アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬に対する生物学的製剤の使用を積極的に行っている。外来患者数は 1 日平均 90 名にのぼり、総合病院ならではの、他科と関連した皮膚疾患の経験を豊富に積むこ

とが可能である。当院皮膚科は院内連携チーム、糖尿病足壊疽対策チーム、褥瘡チーム、化学療法対策チームに所属しており、他科との連携を重視して活動している。学会参加や発表は定期的に行っている。

#### 研修連携施設13：長浜赤十字病院

所在地：滋賀県長浜市宮前町 14-7

プログラム連携施設担当者（指導医）：川端 紀子（診療部長）

施設特徴：長浜市で皮膚科常勤医のいる唯一の総合病院であり、common disease から難治性疾患まで幅広い症例が集まり、豊富な経験を積むことが可能。ナローバンド UVB やエキシマライトを用いた紫外線療法、円形脱毛症に対する SADBE 療法などを行うことにより、各疾患の病態に迫った治療を行っている。毎週金曜日に手術室を利用し、日帰りまたは入院で皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍の手術を行っており、皮膚外科基本手技の修練にも適している。週 1 回の通常カンファレンスのほか、月 1 回の近隣の皮膚科勤務医・開業医とのカンファレンスを行うことで複数の経験豊富な医師と意見交換ができ、知見を深め地域内での連携も強めている。

#### 研修連携施設14：兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科

所在地：兵庫県尼崎市東難波町二丁目 17 番 77 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：工藤 比等志（皮膚科科長）

指導医：湊 はる香

施設特徴：2015 年 7 月に兵庫県立尼崎病院、塚口病院が移転統合（条例上は尼崎病院の移転改称）して発足した新病院である。尼崎市のみならず、阪神南・北地域全体を対象にした、730 床、医師数約 300 名の高度急性期医療を担う。通常の皮膚疾患から重症例、難治例、悪性疾患にいたる幅広い症例を経験できる。

#### 研修連携施設15：大阪赤十字病院皮膚科

所在地：大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30

プログラム連携施設担当者（指導医）：八木洋輔（診療部長）

指導医：藤田真文

施設特徴：アトピー性皮膚炎や乾癬など、皮膚疾患には慢性に経過し、精神的なストレスなどで増悪する疾患が少なくない。患者さんが自分の疾患と病態をしっかり理解しながら、長期にわたって治療に取り組むことがもっとも大切と考え診療を行なっている。十分な説明を通し、病気を理解して貰うことを常に心がけている。専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、爪外来・足病変外来、ケミカルピーリング外来を設ける。外来患者数は1日平均約100名、年間手術件数は550名を超え、豊富な経験を積める。

#### 研修連携施設16：宇治武田病院

所在地：京都府宇治市宇治里尻 36-26

プログラム連携施設担当者（指導医）：小寫綾子（部長）

施設特徴：外来患者数は1日平均30名、豊富な経験を積むことが可能。研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

#### 研修連携施設17：日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科

所在地：和歌山県和歌山市小松原通 4-20

プログラム連携施設担当者（指導医）：辻岡 馨（皮膚科部長）

施設特徴：和歌山県における基幹病院の一つとして、また救急医療に重点を置く急性期病院として、診断が困難な症例、治療に難渋している症例、入院治療を必要とする症例を受け入れて、病状を正確に評価し、短期集約的に治療を行い、寛解に持ち込むのを基本方針としている。日常的なものから比較的稀なものまで多彩な皮膚疾患を診療対象としているが、皮膚症状によっては全身疾患、内臓疾患の早期症状、部分症状であることもあり、その検索は精力的に行っている。皮膚科診療でしばしば遭遇する多くの境界領域疾患に対しては、院内の他科とも相互補完的に診療している。また、同じ疾患であっても各個人の

立場、事情をきめ細かく把握し、QOLを重視して対処法を考慮している。治療方針を確立したあとは地域医療機関への逆紹介も積極的に行い、皮膚科領域での病診連携ないし病病連携の構築も目指している。

#### 研修連携施設18：倉敷中央病院皮膚科

所在地：岡山県倉敷市美和 1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大谷稔男

施設特徴：皮膚科入院患者の疾患別内訳は感染症や自己免疫疾患、薬疹、悪性腫瘍（化学療法）が多い。また、病院全体では患者数ランキング全国1位を誇り、他科の疾患とも関連した豊富な症例を経験できる。指導医とマンツーマンの勉強会も随時可能である。症例発表にも力を注ぎ、皮膚科専門医に必要な思考力や表現力を養成する。

#### 研修連携施設19：独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター

##### 皮膚腫瘍科・皮膚科

所在地：鹿児島県鹿児島市城山町 8-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松下茂人

施設特徴：平成26年10月に新設した鹿児島県内の皮膚悪性腫瘍の診療を中核として担う施設であり、年間手術件数は、開設以来1年で600件以上にのぼる。手術のみでなくがん薬物療法も数多く行っている。さらに日本臨床腫瘍グループ（JCOG）皮膚腫瘍グループ参加施設であるため、皮膚悪性腫瘍における医師主導型多施設共同研究にも参加しており、臨床研究においても充実している。上記のとおり、日本でも有数のがん治療の中心施設であることから、本プログラムの連携施設として登録している。

#### 研修連携施設20：香川大学皮膚科学

所在地：〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大日 輝記（診療科長）

指導医：加来 洋

施設特徴：専門外来として乾癬外来、アトピー性皮膚炎外来、ざ瘡・美肌外来、レーザー外来、陥入爪外来などを設ける。外来患者数は1日平均30名である。豊富な経験を積める。年間手術数は200件を超える。研究面も指導医との連携を強め、多様な研究成果を創出している。

香川県内の皮膚癌治療センターである。外来手術を除いた年間手術数は、約200件である。レーザー指導医、レーザー専門医、アレルギー専門医が在職する。高度かつ専門的領域で修練と研鑽が可能である。

#### 研修連携施設21：滋賀県立総合病院

所在地：〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川 雄仁（診療部長）

施設特徴：滋賀県の基幹病院であり、皮膚科外来治療、入院加療が可能である。一般外来、紫外線治療、皮膚外科を行う。ピーリングなどの自由診療も実施している。皮膚病理診断に重きを置き、病理部との定例カンファレンスを行なっている。皮膚科学の基礎知識、基礎的手術手技、プリックテスト、皮内検査、パッチテストなどの手技を習得可能である。2012年8月より地域がん診療連携拠点病院に指定されている。2016年に高度医療センターが院内設置され、複数の診療科による多角的・総合的診察治療を実施している。

#### 研修連携施設 22：JCHO 星ヶ丘医療センター皮膚科

所在地：〒573-8511 大阪府枚方市星丘 4-8-1

プログラム連携施設担当者（指導者）：立花隆夫（皮膚科部長）

施設特徴：大阪市北部の地域密着型の急性期病院であり、他科との連携、チーム医療を中心とした診療を特徴としている。日常的な皮膚疾患から難治性の疾患まで、皮膚疾患全般の診療を行う。皮膚科外来では、問診、視診を中心に検鏡、ダーモスコピー、皮膚生検、パッチテスト（金属シリーズ、パッチテストパネルが使用可能）などを用いて診断し、各種ガイドラインを参考にした標準的治療を基本としている。乾癬、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤による治療も可能である。帯状疱疹の重症例、蜂窩織炎、薬疹、類天疱瘡、褥瘡の感染併発や、デブリードマンを必要とする症例、難治性皮膚潰

瘍などは入院にて治療する。チーム医療を牽引し、褥瘡の治療と予防に努めている。皮膚外科（手術，処置等），皮膚貼布試験の経験が可能である。

**研修連携施設 23：神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院**

所在地：〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 2-1-1

プログラム連携施設担当者（指導者）：立花隆夫（皮膚科診療部長）

施設特徴：神戸地区の中核病院である。日常的な皮膚疾患から，難治性の疾患まで，皮膚疾患全般の診療を行う。幅広い経験が可能である。

**研修準連携施設 1：北山武田病院**

所在地：京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町 99 番地

施設特徴：一般皮膚科に加えて美容皮膚診療を推進している点で特徴的である。一般皮膚科では、一般的な皮膚疾患、アレルギー、褥瘡など幅広く診療し、化粧品などの日用品を用いたパッチテストや金属アレルギーのパッチテスト、巻き爪のワイヤー法なども行っている。また、美容皮膚科では形成外科と合同で美容治療を行っており、シミ、シワ、ほくろ、ざ瘡瘢痕など保険では扱えない疾患に対する内服・外用・レーザー治療を学ぶことが出来る。

**研修準連携施設 2：公立豊岡病院皮膚科**

所在地：兵庫県豊岡市戸牧 1094

施設特徴：但馬地域の拠点病院であり、様々な症例患者の来院があり豊富な症例経験をすることが出来る。皮膚科医において必要な外科的処置（手術を含む）を習得出来る。

**研修準連携施設 3：京都きづ川病院**

所在地：京都府城陽市平川西六反 26-1

施設特徴：整形外科、脳神経外科、消化器内科を中心に、京都府南部で地域密着型の病院として多くの患者を受け入れている。皮膚科は主に独立外来部門

であるクリニックで外来診療を行い一般皮膚診療において地域のニーズにこたえているが、他科から入院患者の往診依頼も多く、他科と連携しながら入院中に付随して生じる幅広い皮膚疾患を見ることが可能である。

#### 研修準連携施設 4：赤穂市民病院

所在地：兵庫県赤穂市中広 1090 番地

施設特徴：様々な症例患者の来院があり豊富な症例経験をすることが出来る。皮膚科医において必要な外科的処置（手術を含む）を習得出来る。

#### 研修準連携施設 5：医療法人財団康生会 武田病院

所在地：京都府京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町 841-5

施設特徴：様々な症例患者の来院があり豊富な症例経験をすることが出来る。皮膚科医において必要な外科的処置（手術を含む）を習得出来る。

#### 研修準連携施設6：宇治徳洲会病院

所在地：〒611-0041 京都府宇治市槇島町石橋 145 番

施設特徴：外来患者数は1日平均30名。総合病院であり他科との連携を通して豊富な経験を積むことが可能である。

#### 研修準連携施設7：関西電力病院

所在地：大阪市福島区福島2-1-7

施設特徴：光線療法として、狭範囲中波長紫外線(NB-UVB)照射を主体に行っている。呼吸器内科・放射線科との連携した対応のもと、日本皮膚科学会より生物学的製剤使用施設認定を受け、抗TNF $\alpha$ 製剤・抗インターロイキン12,23製剤、抗インターロイキン17製剤を投与している。

皮膚腫瘍（良性・悪性）や保存的外用療法では治療困難な褥瘡・下腿潰瘍・糖尿病性足病変などは、当院形成外科と緊密に連携し、症例毎に手術適応を速やかに見定め、罹病期間の短縮を図っている。

#### 研修準連携施設8：福井赤十字病院

所在地：福井県福井市月見町 2-4-1

施設特徴：福井県の基幹病院皮膚科として悪性皮膚腫瘍の手術、膠原病を含めあらゆる皮膚疾患を診療している。また乾癬に対して生物学的製剤の導入を積極的に施行し福井県で最多の症例数を持っている。またアザ、シミに対しての最新式のQスイッチルビーレーザーを所有し美容皮膚科の研修も十分に可能となっている。

#### 研修準連携施設9：洛西ニュータウン病院

所在地：京都府京都市西京区大枝東新林町 3 丁目 6 番地

施設特徴：京都市西部および京都府亀岡市周辺の地域医療を担う病院である。外来は、一般内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、一般外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科を開設しており、他科との連携を通して豊富な経験を積める。

#### 研修準連携施設10：三菱京都病院

所在地：京都市西京区桂御所町 1

施設特徴：京都市南西部、乙訓地区、亀岡市方面の患者が多い。外来患者数は1日平均40名で多様な疾患を含む。週に1回の褥瘡回診を行い、積極的に褥瘡対策を行なっている。他科との連携も密であり、豊富な経験を積める。

#### 研修管理委員会委員

委員長：梶島健治（京都大学病院皮膚科長）

委員：江川形平（京都大学病院皮膚科講師）

：中溝聡（京都大学病院皮膚科助教）

：野村尚史（京都大学病院皮膚科特定准教授）

：清水平ちひろ（洛和会音羽病院皮膚科）

：櫻井弓子（済生会野江病院皮膚科部長）

：石川牧子（社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院皮膚科）

- : 矢嶋萌（枚方公済病院皮膚科）
- : 十一英子（京都医療センター皮膚科部長）
- : 吉川義顯（北野病院皮膚科部長）
- : 松井美萌（医仁会武田総合病院皮膚科）
- : 荒井利恵（大阪府済生会中津病院）
- : 今村貞夫（十条武田リハビリテーション病院）
- : 古川福実（高槻赤十字病院）
- : 笹橋真紀子（大津赤十字病院皮膚科部長）
- : 田邊 洋（天理よろづ相談所病院皮膚科部長）
- : 川端紀子（長浜赤十字病院）
- : 工藤比等志（兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科部長）
- : 八木洋輔（大阪赤十字病院皮膚科部長）
- : 小嶋綾子（宇治武田病院皮膚科）
- : 辻岡 馨（日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科）
- : 大谷稔男（倉敷中央病院皮膚科）
- : 松下茂人（鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科）
- : 大日輝記（香川大学医学部附属病院皮膚科）
- : 中川雄仁（滋賀県立総合病院皮膚科）
- : 立花隆夫（星ヶ丘医療センター皮膚科）
- : 長野 徹（神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科）
- : 井川順子（京都大学医学部附属病院・看護部部長）

**研修連携施設 前年度診療実績：**

施設	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数	全身麻酔年間手術数	指導医数
京都大学	102.0	20.0	1208.0	78.0	15.0
音羽病院	46.3	1.5	111.0	0.0	2.0
野江病院	36.3	1.9	194.0	0.0	1.0
京都桂病院	31.7	1.2	217.0	0.0	1.0
枚方公済	17.1	0.2	98.0	0.0	1.0
京都医療センター	56.2	3.1	256.0	0.0	1.0

北野病院	56.9	2.9	432.0	0.0	3.0
医仁会武田	70.0	5.0	620.0	0.0	2.0
済生会中津	70.0	2.0	303.0	0.0	1.0
十条武田	13.9	0.4	65.0	0.0	1.0
高槻赤十字	40.0	2.8	47.0	0.0	2.0
大津赤十字	45.4	2.2	148.0	0.0	1.0
天理よろづ	105.2	3.0	89.0	7.0	2.0
長浜赤十字	39.1	2.5	298.0	0.0	1.0
尼崎医療センター	52.1	2.1	589.0	0.0	3.0
大阪赤十字	57.5	5.9	639.0	25.0	2.0
宇治武田病院	39.7	0.6	120.0	0.0	1.0
和歌山医療センター	56.6	3.7	309.0	0.0	2.0
倉敷中央	77.0	7.0	320.0	0.0	1.0
鹿児島医療センター	33.1	7.7	928.0	201.0	1.0
香川大学	30.0	4.0	200.0	10.0	2.0
滋賀県立総合	21.3	1.2	265.0	0.0	1.0
星ヶ丘医療センター	36.0	3.8	334.0	18.0	1.0
神戸中央市民	67.0	11.0	900.0	77.0	2.0
合計（人）	1200.4	95.7	8690.0	416.0	50.0

#### D. 募集定員：6人

- ①通常プログラム：4名
- ②連携プログラム：2名

#### E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定（京都大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また選考結果は本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を京都大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

#### F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。

その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会 (hifu-senmon@dermatol.or.jp) に通知すること。

#### G. 研修プログラム 問い合わせ先

京都大学医学部附属病院皮膚科

椋島 健治

TEL : 075-751-3310

FAX : 075-751-4949

#### H. 到達研修目標 :

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26~27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

#### I. 研修施設群における研修分担 :

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 京都大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また少なくとも1年間の研修を行う。
2. 大阪赤十字病院皮膚科、天理よろづ相談所病院皮膚科、鹿児島医療センター皮膚科、香川大学では、急性期疾患や頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、また皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。さらに地域医療の実践、病診連携を習得し、京都大学医学部皮膚科の研修を補完する。洛和会音羽病院皮膚科、京都桂病院皮膚科、京都医療センター皮膚科、医仁会武田総合病院皮膚科、十条武田リハビリテーション病院皮膚科、大津赤十字病院皮膚科、長浜赤十字病院皮膚科、野江病院皮膚科、枚方公済病院皮膚科、北野病院皮膚科、中津病院皮膚科、高槻赤十字病院

皮膚科、兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科、宇治武田病院皮膚科、日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科、倉敷中央病院皮膚科、滋賀県立総合病院、JCHO 星ヶ丘医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院では、急性期疾患や頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、さらに地域医療の実践、病診連携を習得し、京都大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設または、指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設のいずれかで、原則として少なくとも1年間研修を行う。

3. 準連携施設である北山武田病院皮膚科、公立豊岡病院皮膚科、京都きづ川病院皮膚科、赤穂市民病院皮膚科、康生会武田病院皮膚科、宇治徳洲会病院皮膚科、関西電力病院皮膚科、福井赤十字病院、洛西ニュータウン病院、三菱京都病院では指導医不在の一人医長として、最長1年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、京都大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。

## J. 研修内容について

### 1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

#### ・通常プログラム

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	連携	連携	連携	連携
c	基幹	連携 (皮膚外科)	連携 (皮膚外科)	連携 (皮膚外科)	連携
d	基幹	連携	連携	準連携	基幹
e	基幹	連携	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)
f	連携	基幹	基幹	連携	連携

g	準連携	基幹	基幹	連携	連携
---	-----	----	----	----	----

- a : 研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。
- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 研修2年目に皮膚外科症例が豊富な連携施設にて研修し、皮膚外科医を目指すコース。
- d : 研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。
- e : 研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。研究への熱意を重視するコース。
- f : 連携施設から研修を開始し臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- g : 準連携施設から研修を開始し臨床医としての研修に重点をおいたコース。

### ・連携プログラム

\*以下は例であるため、時期や施設の変更の可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	滋賀 連携施設	滋賀 連携施設	兵庫 連携施設
b	滋賀 連携施設	滋賀 連携施設	兵庫 連携施設	基幹	基幹
c	基幹	滋賀 連携施設	滋賀 連携施設	奈良 連携	基幹
d	基幹	奈良 連携施設	滋賀 連携施設	滋賀 連携施設	基幹
e	基幹	滋賀 連携施設	滋賀 連携施設	大阪 連携施設	基幹
f	基幹	大阪	滋賀	滋賀	基幹

		連携施設	連携施設	連携施設	
--	--	------	------	------	--

\*連携プログラム枠にて採用されたものは、5年間の研修期間のうち、半分以上を京都府以外の地域にて研修を行う。なお、上記は例であり、研修先施設や時期は変更になる可能性がある。

- a：最初の2年間で京都大学および府内の研修連携施設などで研修し、残りの3年間で滋賀県や兵庫県などの連携施設で研修する。
- b：最初の3年間で滋賀県や兵庫県といった連携施設で研修し、残りの2年間で京都大学および府内の研修連携施設で研修する。

## 2. 研修方法

### 1) 京都大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月

英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス 回診	病棟 手術	病棟 手術		

### 2) 連携施設

## 1. 洛和会音羽病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟	宿直※	

※宿直は2回／月を予定

## 2. 大阪府済生会野江病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の皮膚科臨床，処置，手術法を習得する。他科との院内連携として院内褥瘡回診勉強会に毎週参加する。病院が実施する医療安全講習会や感染対策講習会に定期的に参加する。地域医療の勉強会を熱心に行っており、紹介患者の経過報告や連携患者の対策など地域連携を学ぶ会合に積極的に参加する。また、皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 褥瘡回診	病棟 生検	病棟 手術 カンファレンス	病棟 外来処置	病棟 外来処置		

※宿直は現在のところ皮膚科医は免除されている

土日は週休2日であるが、国民の祝日は開院しており通常業務を行う。

### 3. 京都桂病院皮膚科：

指導医の下，市中病院の勤務医として，外来/病棟診療，処置，手術法を習得する。病理医とのカンファレンスは月1回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術・生 検・紫外線 治療などの 処置中心	病棟 手術・生 検・紫外線 治療などの 処置中心	病棟 手術・生 検・紫外線 治療などの 処置中心	病棟 手術・生 検・紫外線 治療などの 処置中心 褥瘡回診	病棟 手術・生 検・紫外線 治療などの 処置中心		カンファレンス※

※病理カンファレンス 1回/月を予定

毎朝夕に皮膚科入院患者の回診

### 4. 枚方公済病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置 褥瘡回診	病棟 処置	病棟 処置		

			カンファレンス				
--	--	--	---------	--	--	--	--

当直：救急（外科）当直 1回／月程度の予定

### 5. 京都医療センター：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

#### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 午後 前半	外来 生検、処 置	外来 生検、処 置	外来 手術	外来 生検、処 置	外来 生検、処 置		
午後 後半	病棟 回診  合同カンファ レンス*	病棟  カンファレンス	病棟 褥瘡回診  カンファレンス	病棟 病理 カンファレンス	病棟 回診  カンファレンス	当直*	

\*糖尿病足病変カンファレンス、皮膚形成カンファレンスを各1回／月

※当直は2回／月を予定

### 6. 北野病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。院内皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来 手術	外来	外来 (月2回)	
午後	病棟	病棟	病棟 手術 回診	病棟  カンフ ァレン ス	病棟 外来	宿直※	

※宿直は3回／月を予定（宿直は不定曜日であるが、その翌日は外来を行わないことを原則としている。）

#### 7.医仁会武田総合病院皮膚科：

指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医。循環器内科医、WOC認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいております、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	病棟対診 処置・手術 ・紫外線治療	病棟対診 処置・手術 ・紫外線治療	病棟対診	病棟対診 処置・手術 ・紫外線治療	病棟対診 処置・手術 ・紫外線治療	病棟 対診
午後	院内カンファ ァレンス・ 会議	創傷カンフ ァレンス	アトピー・ スキンケア 外来	臨床カンフ ァレンス	褥瘡回診	

## 8. 大阪府済生会中津病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置		

当直：救急（外科）当直 1回／月程度の予定

## 9. 十条武田リハビリテーション病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来		外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 手術	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術		

## 10. 高槻赤十字病院：

外来患者数は40～50人。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、帯状疱疹、蜂窩織炎、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪など皮膚付属器疾患、また、褥瘡、足潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害などの診療を行っている。

地域の最終病院としての自覚を持ち、どんな皮膚疾患にも、積極的に対応している。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 褥瘡外来	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 カンファレンス ※	宿直※	

※宿直は1、2回/月を予定

※金曜日 PM のカンファレンスは大阪医科大皮膚科カンファレンスに参加(1, 2回/月)

#### 11. 大津赤十字病院皮膚科：

指導医のもとで、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療、処置、手術などを習得する。カンファレンス、抄読会を週1回行い皮膚科学全般にわたり学習する。さらに病理部との合同カンファレンスを週1回、形成外科との合同カンファレンスを月1回行うことで病理診断や手術症例についても各専門医の指導のもとで学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を年に1編以上発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 外来 褥瘡回診	病棟 カンファレンス	宿直※	宿直※

※宿直は1回/月を予定

## 12. 天理よろづ相談所病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 回診	病棟 手術 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術	病棟 回診	病棟	

※宿直は1回／月を予定

## 13. 長浜赤十字病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。週1回のカンファレンスおよび月1回の近隣の皮膚科とのカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	処置	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術		

※病棟管理当直3～4回／月あり

#### 14. 兵庫県立尼崎総合医療センター皮膚科：

指導医の下、週に3回の午前中外来を担当し、3名程度の入院患者を主治医として受け持つ。診療科として重点を置いている重症、難治例だけでなく、通常の皮膚疾患を含めた幅広い症例に対応できる能力を習得できるようにする。年に2回以上学会発表を行うとともに、発表内容をもとに論文を執筆する。週1回のカンファレンスおよび皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

##### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術	病棟	病棟		

※宿直は1-2回/月を予定

#### 15. 大阪赤十字病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

##### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来	外来 病棟	外来 病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 病棟 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術 カンファレンス	病棟	宿直※	

※宿直は1-2回/月を予定

#### 16. 宇治武田病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の皮膚科医療，処置手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	(外来)	外来	外来	(外来)	外来		
午後	病棟	病棟	病棟 カンファ レンス 抄読会	病棟	病棟		

午前外来は月火水金または月火木金の週4コマ診療担当となる。

**17. 日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科：**

地域医療の中核病院の勤務医として，まず電子カルテシステムに習熟し，皮膚科外来診療のエッセンスを会得し，入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で，各種処置法，手技を身につける。週1回の臨床カンファレンスに参加し，肉眼所見，病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月1から2回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年1回受講し，年に2回程度筆頭演者として学会発表を行う。年1篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会，学術講演会，セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに，顔の見える形での病診連携を实践する。病院内で実施される医療安全講習会，院内感染対策研修会，医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟	病棟 褥瘡カン ファレンス	病棟	病棟 カンファレンス	病棟		

※初療室の日当直は月 2 回程度割り当てられ、オンコール当番を月 10-15 日ぐ  
らい務める。

### 18. 倉敷中央病院皮膚科：

外来では紹介を含め新患も担当し、症例検討会で受け持ち患者を提示する。  
また、入院患者の主治医として検査や治療を行い、カンファレンスでプレゼン  
テーションを行う。他科入院患者や救急患者の診断・治療にも積極的に関わる。  
講演会や勉強会に参加して見識を広める。学会や研究会で、年 3 回以上の症例  
報告を行い、年 2 編以上、論文で発表する。

#### 研修の週間予定表の 1 例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	病棟	外来	外来	外来	
午後	外来 病棟	外来 病棟	病棟 カンファレンス 症例検 討	病棟 病棟 (講演 会)	外来 病棟		

土曜外来は隔週

宿直は 1 回／月程度

### 19. 鹿児島医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚腫瘍の診療（診断・皮  
膚外科・がん薬物療法など）を主に習得する。週に 1 回行われる病理・症例検  
討会、術前検討会に参加して学習する。月に 1 回当科主催で病理診断医・形成  
外科医・開業皮膚科医と合同で行っている皮膚病理カンファレンスに参加して  
学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者と  
して学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参  
加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	手術	外来		
午後	手術 病棟	手術 病棟	病棟 カンファレンス	手術 病棟	手術 病棟	宿直※	

※宿直は1回／月を予定

20.香川大学：

指導医の下，中核病院の勤務医として，皮膚腫瘍の診療（診断・皮膚外科・がん薬物療法など）を主に習得する。週に1回行われる病理・症例検討会、術前検討会に参加して学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	病棟	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

21. 滋賀県立総合病院：

地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		

	回診カンファ			病理カンファ			
--	--------	--	--	--------	--	--	--

## 22. JCHO 星ヶ丘医療センター：

指導医の下，外来診療，入院症例，他科からの対診症例，救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。臨床カンファレンス，褥瘡カンファレンスなどを通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ，学会，カンファレンス，地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会では知識のブラッシュアップが可能である。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置	外来 生検処置		
午後	病棟 回診カンファ	病棟	病棟	病棟 病理カンファ	病棟		

## 24. 神戸市立医療センター中央市民病院

所在地：〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 2-1-1

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。神戸大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術 手術	外来 褥瘡回診	手術 手術	外来		

午後	病棟 外来	手術 カンファレンス	病棟 外来	手術	病棟 外来		
----	----------	---------------	----------	----	----------	--	--

宿直は2回／月を予定

### 3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

### 4) 大学院(研究)

皮膚科、あるいは皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

### 5) 研修準連携施設

#### 1. 北山武田病院：

北山武田病院は、現在指導医は不在であるが、美容治療を推進している特徴を活かして研修を行う。研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科および美容皮膚科の外来診療・施術が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 2. 公立豊岡病院：

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

#### 3. きづ川病院：

きづ川病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院や、手術を必要とする患者を希望に応じて近隣の形成外科を有する施設(宇治

徳洲会病院、宇治武田病院)に紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 4. 赤穂市民病院：

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 5. 康生会武田病院：

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 6. 宇治徳洲会病院：

市中病院の勤務医として、外来/病棟診療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

#### 7. 関西電力病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 8. 福井赤十字病院

指導医の下、福井県の基幹病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、悪性皮膚腫瘍の手術、膠原病を含めたあらゆる皮膚疾患を経験する。乾癬に対して生物学的製剤の導入を積極的に施行し、福井県の医療に貢献する。またアザ、シミに対しての最新式のQスイッチルビーレーザーによる美容皮膚科の研修も経験する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学

会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 9. 洛西ニュータウン病院

外来/病棟診療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

### 10. 三菱京都病院

地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週1回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月1-2回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年1回受講し、年に2回程度筆頭演者として学会発表を行う。年1篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会，学術講演会，セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

### 研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定

11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う (開催時期は年度によって異なる)
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

#### K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に京都大学医学部皮膚科にて、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識\_2. 診療技術\_3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療\_4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識\_5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験2. 手術症例経験3. 検査経験）を中心に研修する。
  - 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
  - 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、京滋地方会、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

#### L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。

2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。

経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特にp. 15～16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

#### M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート15例，手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。

6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

**N. 研修の休止・中断，異動：**

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

**O. 労務条件、労働安全：**

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2022年06月09日  
京都大学医学部皮膚科  
専門研修プログラム統括責任者  
椋島 健治